

ソーシャルインパクト指標とは

直訳すると「社会的な効果の指標」。

事業や活動の結果として生じた社会的な変化や効果を、わかりやすく伝えるための指標です。

「目指す姿」を具体化し、その達成状況を測定・管理していくことができます。

定量指標、定性指標の両方がありますが、定量の方が成否を判断しやすいといわれます。

指標のメリット

- 取り組みの成果を示しやすくできます。理解してもらいやすくできます
- 取り組みの先に何をめざすかを、より具体的に示すことができます

今回のソーシャルインパクト指標の策定ポイント

- 「世田谷区らしい」指標を目指します（↔ 無機質な統計指標）
- 委員の皆様のご発言から、「事業者・区民などの好ましい行動」を指標化します
- 戦略と整合性を持たせます
- 測定方法も見通せる指標にします

ソーシャルインパクト指標の例（金融庁「ソーシャルボンド検討会議」の資料より引用）

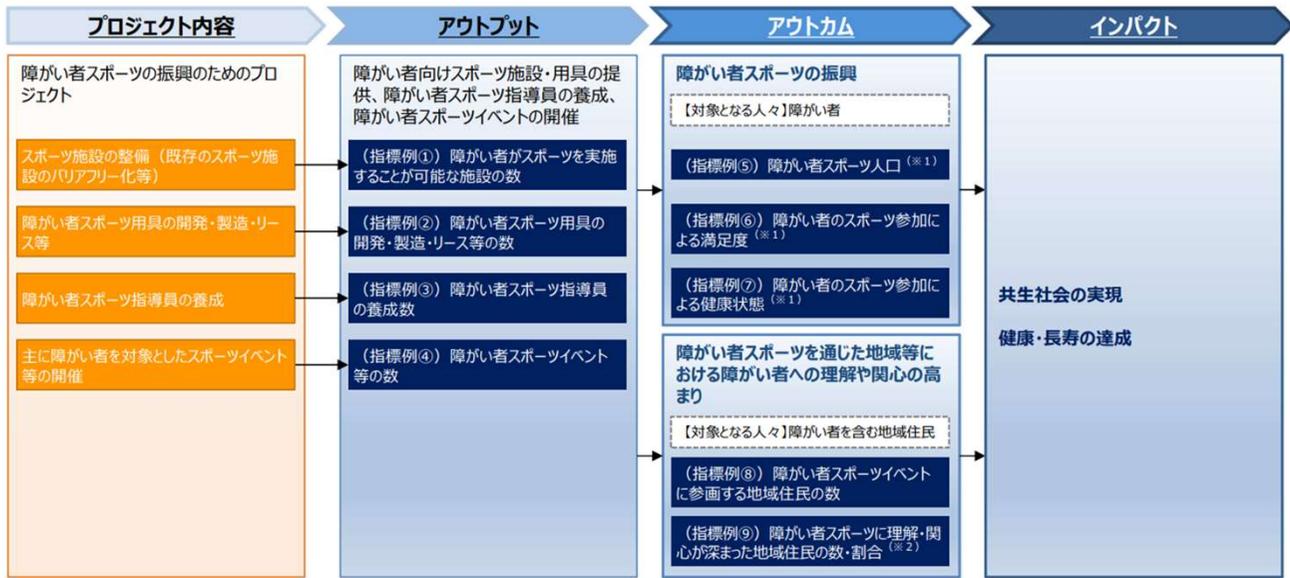
例③

ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進
健康・長寿の達成

インパクトに至る過程及び指標等の例

障がい者を対象にしたスポーツ・レジャー機会の提供、バリアフリー/ジェンダーフリー施設・設備の整備、ユニバーサル対応の推進、健康増進や病気予防を目的としたプログラムの提供

社会的課題	ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進、健康・長寿の達成
社会的な目標	障がい者向けスポーツ施設・用具の提供、障がい者スポーツ指導員の養成、障がい者スポーツイベントの開催に係るプロジェクトの実施により、共生社会の実現と健康・長寿の達成に貢献する。



出典) 金融庁ソーシャルボンド検討会議、
付属書4 ソーシャルプロジェクトの社会的な効果に係る指標等の
例、15ページ

アウトプット・アウトカム・インパクトの算定方法（例）
 ※1 障がい者の運動・スポーツの実施状況や、スポーツ参加による健康状態や満足度の把握を目的とした、障がい者へのアンケート
 ※2 地域住民の障がい者スポーツに対する意識・関心について把握することを目的とした、地域住民（施設等の利用者やイベント参加者）へのアンケート

ソーシャルインパクト指標の例（金融庁「ソーシャルボンド検討会議」の資料より引用）

例③

ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進
健康・長寿の達成

インパクトに至る過程及び指標等の例

障がい者を対象としたスポーツレジャー機会の提供、バリアフリー/ジェンダーフリー施設・設備の整備、ユニバーサル対応の推進、健康増進や病気予防を目的としたプログラムの提供

社会的課題	ダイバーシティの推進、バリアフリーの推進、健康・長寿の達成
社会的な目標	障がい者向けスポーツ施設・用具の提供、障がい者スポーツ指導員の養成、障がい者スポーツイベントの開催に係るプロジェクトの実施により、共生社会の実現と健康・長寿の達成に貢献する。



15

指標設定の流れ

1. 事業を通じて社会変化（インパクト）が実現する道筋を描きます

「プロジェクト内容」
→ 「アウトプット」
→ 「アウトカム」
→ 「インパクト」の流れ

2. 1. の道筋のアウトカム（※）の項目に対し、対応する指標を設定します

左図では、

「障がい者スポーツの振興」
「障がい者スポーツを通じた地域等における障がい者への理解や関心の高まり」
に対応する指標を設定しています

出典) 金融庁ソーシャルボンド検討会議、付属書4 ソーシャルプロジェクトの社会的な効果に係る指標等の例、15ページ

(※) アウトカム：アウトプットの結果として「対象となる人々」等にもたらされる便益や変化（成果）